

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970700205		
法人名	社会福祉法人 三寿福祉会		
事業所名	グループホーム 友徳苑		
所在地	奈良県五條市住川町1426番地		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

事業所の基本情報は、公表センター²

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「家庭的な雰囲気の中」という一つに館内全体が木をふんだんに使用し、木のぬくもり、自然を身体全体で感じられることも高齢者にとって安心感の一つです。その様な環境のもと、私達職員は一緒に生活を共にする家族の一員である事と、また喜怒哀楽と一緒に感じる事を理解しながら、個々のケアにあたっています。「できないこと」「わからないこと」に目をむけず、「できること、できそうなこと」「わかること、わかりそうなこと」に視線を置き、個々の利用者の持っている隠された力を発揮できる環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅複合施設の一つとして開設されたグループホームです。「ゆったりとした時間」「一人一人の生活リズム」「ごく普通の生活」「地域住民とのふれあい関わり合い」を理念のポイントに掲げ、一人ひとりの生活歴、性格、思いを把握し、毎日楽しく過ごすためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は、本人の立場に立って、常に追求されています。実際、ケアはきめ細かく、様々な工夫や配慮が見られます。
金剛山麓の自然豊かな山間部に立地し、建物は、掃除が行き届き、明るく清潔感にあふれ、各所にバリアフリーが施されていると共に、木のぬくもりが感じられるよう随所に木が多用され、居間には畳の間があり、掘りごたつ、丸窓や紙障子が設えられ、大きな窓から周囲の山々が見ることが出来る等利用者の五感刺激、季節感や動線に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫され、さらには、一人ひとりの生活歴を活かした支援や夫々の能力に応じた役割、楽しみごとの支援等穏やかな落ち着いた生活ができるよう支援されているホームです。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員の目が届く所に、理念を掲げ、朝礼時に三唱していると同時に、実現へと繋げている。また振り返ることを意識づけを行っている。	地域の人々との関わりを重視した理念とされています。日々のサービスの提供場面を振り返り、理念をケアに反映されているかを確認する等実践につながるよう、取り組みがなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動への参加は、立地上困難ではあるが、法人全体の行事参加の場を多く設け、交流を図っている。	立地上の制約から、その実現は困難ではあるが、必要性を認識し、できる限り買い物等に出かける等交流の機会をつくるよう努力されています。	法人全体の行事として、地域住民の参加を得て開催する等、利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりの取り組みは見られますが、今後はさらに、地域の一員としての取り組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族参加型の行事を開催し、家族同士の抱えている問題や認知症についての話し合いを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に開催した。家族からは、会議という堅苦しさと思われぬように、和やかな雰囲気を出せるように環境に配慮した。	関係者の日程調整がつかない等の理由から家族のみの参加の下、1回開催され、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行われています。開催頻度を2ヶ月に1回程度開催出来る様にしていきたいと考えられています。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、地域住民、市職員等の参加者への働きかけを工夫することが望まれます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況や市町村外の受け入れについての相談や報告を窓口、書面を通じて情報などの協力をして頂いている。	現状の報告や相談を行ないながら関係を保てるよう努められています。	市は、介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役として再前線の立場にあります。努力は見られますが、今後より一層積極的に連携を図る取り組みが望まれます。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加し、身体拘束の理解に努めている。緊急やむを得ずの場合は、利用者、家族との十分な話し合いを行い、利用者の精神面に配慮したケアを実践している。	全ての職員は、身体拘束の弊害を正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組まれています。日中玄関は施錠することなく開放されています。緊急やむを得ず、家族の同意を得て身体拘束に至るケースもありますが、見守りを徹底する等して常態化することなく限定的なものとなるよう努められています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	知識の中にも、今ある現状での不具合を見つけ早急な解決策を職員で常に話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ必要とされる利用者は居ないが、今後このようなケースになった場合でも、スムーズに対応できるように、研修会や勉強会の機会を増やしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に至るまでの間に家族や利用者の思いを十分くみ取りながら、安心して入所できるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも話して頂けるように、こちらから言葉掛けを行っている。また頂戴した意見には、早急な対応を行うと同時に、職員間においても周知させている。	手紙や来訪時等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見、要望等は検討し反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は全体会議を開催している。また早急な問題があった場合は、その都度会議を開催し解決策を講じている。	毎月1回全体会議を開催し、意見交換が行なわれています。利用者や職員の馴染みの関係づくりに配慮し、職員が交代する場合は、引継ぎ期間を十分にとりスムーズに移行できるように工夫されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を把握し、仕事に対する意欲向上を持てる環境を創っている。また資格取得に向けた勉強会も開催し、実績につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修会をたて、毎月1回以上の勉強会を行っている。また内容によっては、経験年数別に勉強会に参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1度、市内のグループホーム連絡会を開催し、事例研修等を行い、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階でアセスメントを行い、利用者のどのような暮らしを望まれているかを話し合い、入所からの不安や混乱を解消している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に家族の主訴を取り入れ、利用者のみならず、家族の思いも盛り込み作成している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階では、グループホームでの生活支援に向けて対応をしているが、利用者の心身の状態に変化がある場合は、家族と十分な話し合いを持ち利用者に合ったサービス提供できる体制をとっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「家族のような関係」を意識し、利用者の生活を支えている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を開催し、利用者と一緒に過ごす時間を設けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	立地上馴染みの人たちが来苑される事は、ほとんどないが、利用者自身が通信手段を活用できるような支援を行っていきたい。	頻繁にはありませんが、地域に暮らす馴染みの友人が訪問される等支援に努められています。	当たり前の普通の暮らし方を支援するのが地域密着型サービスですが、ホームの中だけでこれに取り組むことは困難であることから、地域社会との関係性を把握し、地域の支援者の協力を得て継続できるよう支援することを期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自身の時間を大切にしながらも、レクリエーション活動や食事時間等を利用し、利用者同士が自然な形で寄り添えるように、側面的な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後併設施設を利用されている利用者については、訪問し懐かしさを感じて頂いている。また退所を検討されている利用者・家族についても、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議を定期的開催することで、利用者の思いや、願いを実現できるようにアセスメントを立てている。	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握し、言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの聞き取りが困難な場合は、家族から情報を頂き、これからの生活に活かせるように取り組んでいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の過ごされてきた生活を尊重することと体調面を確認しながら、趣味や特技を活かして頂けるように取り組んでいる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケア方針を記入することで、状態の変化が見えてくる。またそれにより、再アセスメントを行い、常に利用者本位に立ったケアを実践している。	アセスメントや日々の記録を基にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の個別記録を記載し、申し送り、情報の共有を図っている。この事で介護計画の改善へと繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じたニーズを聴きとっている。具体的には、法人内で開催される、行事、介護教室、レクリエーション活動やボランティアの訪問に参加させて頂き、普段とは違った外部交流をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理解、把握には十分できているが、現状は行動に移せていない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続しながら、利用者の安心できる医療を確保している。家族の都合等でやむを得ずかかりつけ医で受診が出来ない場合は、当苑の医療機関で受診し、混乱なく受診でき環境を確保している。	本人や家族の希望するかかりつけ医とされています。基本的には家族の同行の受診となっていますが、普段の様子や変化を伝え情報提供する等支援されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に随時相談し、医療面でのサポートをして頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会に行き、看護師及び相談員との相談や退院後のアセスメントを立て、退院後も混乱なく以前のような生活を送られるように支援策、今必要な事項を立てている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的なグループホームの方針は挙げられていないのが現状であり、利用者の状態の変化があった場合は、利用者に応じた施設、病院へ移行している。利用者、家族の要望を尊重しながら終末期への理解、職員の理解を深めていきたい。	現在のところ、ホームの力量や体制が十分整っていないことから、契約時にホームが対応し得る最大のケアについて、説明し納得を得るようにされています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変においては、日頃からの観察を徹底している。そのことにより早期発見し、医療との連携を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春には夜間時の火災発生を想定し、訓練を行った。また秋の訓練においては、法人全体で震度5強から火災に至る内容で利用者の救助、避難、消火活動を行う。	消防署の協力を得て年2回訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施されています。現在、近隣住民との防災応援協定締結に向けての協議が行われる等地域との協力体制の構築に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の馴染みの言葉であっても、敬う気持ちを忘れず、対応している。	常に言葉掛けやケアには、敬う気持ちを忘れず、対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面の中で、利用者の自己決定できる支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、一人ひとりの時間を過ごして頂けるように、利用者の今日の状態を把握しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分らしく暮らしていけるように、その人の好みを盛り込みながら着用して頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事職員と一緒に食事を楽しみながら、食べている。個々にあった食事形態にし、食べやすい工夫を行っている。準備や後片付けへの役割を持つことで、活き活きさが出てきている。	利用者と職員と一緒に調理・準備・盛り付け・片付け等を行い、共に同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量、水分量を記録し、バランスが崩れているか確認している。食欲が増すような、盛り付けや食器にも気を配り、目で楽しむ喜びも持って頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの重要性を職員全員が把握し、毎食後の歯磨き、また義歯の不具合、痛み等には早期治療を行い、健康状態の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら、羞恥心に配慮した声掛けを行っている。そのことにより、布パンツに向けた支援策を行っている。	排泄表を使用し、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量の確認と排便作用のある食事を提供している。適度な運動やマッサージを行うことで自然排便に繋げている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自宅と同じように、利用者の入りたい時間帯に入浴できるように環境を整えている。入浴拒否が見られた場合でも、利用者の意思を尊重しながら対応している。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者のリズムに合わせ、自然に入眠出来るように、夜間時の過ごし方を工夫している。また、日中も休息の時間を設け体調の安定に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員で行っている。各職員が確認印を押し、誤飲・誤薬がない様に徹底している。また主治医との密な連絡をとり、体調管理に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でも個々の役割から達成に取り組めるように支援している。責任感の持てる、張りのある生活を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は定期的に行っているが、現状は近隣のみである。利用者の希望や馴染みの場所に行ける機会を増やしていきたいと思う。	外出は、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、近隣での散歩にとどまっています。	今後はさらに、利用者が生き生きと過ごせるよう、これまでの生活の継続としての外出や、個別の外出の支援に取り組んでいくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は職員で金銭管理を行っているが、外出支援の際には、利用者にお渡しし、いつでも使用できるようにしている。自分の欲しい物を、自分で購入できる喜びを持って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を通じて、家族との絆を深めて頂けるように、支援している。手紙のやりとりは無いが、2か月に1度こちらから近況報告を送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じた壁画を利用者と共に作成し、館内の適所に装飾し、雰囲気を出している。	バリアフリーで、木のぬくもりが感じられるよう随所に木が多用され、居間には畳の間があり、掘りごたつ、丸窓や紙障子を設える他、明るく清潔感にあふれ、大きな窓から周囲の山々が見ることが出来る等利用者の五感刺激、季節感や動線に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にも和室があり、和みの空間を設けている。共同生活の中でも利用者の思いやそのときの状態により、自室以外でも自分の時間を持てるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前には居室の間取りを見て頂き、利用者の安心して生活できる空間作りを共に創っていている。馴染みの家具類や利用者の生きがいとなっている物は、必ず持参して頂いている。	写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広々とした廊下を時には、リハビリに、また利用者が作成に携わった作品を展示することで、喜びや楽しみを持って生活できる環境を創っている。		